

## 学生時代と図書館 44

本とのつきあい

舟杉 真一

正直言って、学生時代の私にとって図書館は、暑さや寒さからの避難場所であり、下宿で新聞を取っていなかったので日々の出来事や世界情勢、テレビ番組を知る場であり、授業間の時間つぶしの場所でした。もちろん授業の予習などもしたことがあったと思いますが、本を借りたというのは数えるほどしかなかったように思います。

私は欲張りな人間ですので、常に複数の本を同時に読み進めています。ある本はゆっくり時間をかけて（10年以上も前からいっこうにページの進まない本もあります、またある本は次のページをめくるのがもったいないような本もあります）ある本は一息に、またある本は真剣に、ある本は気晴らしにといった具合です。そして読み終えた本を自分の本棚に並べるのが、そして徐々に増えていく本を眺めるのが学生時代の私にとって（少なからず今の自分もそうですが）大きな喜びでした。決して豊かではありませんでしたが、本にかけるお金は惜しみませんでした。それ以外にこれといった趣味がなかったのです。しかし、いつしか本の中味を楽しむのではなく、読了した本を並べる方が楽しくなってしまったようです。（これが本当の本末転倒です。）その証拠に私の本棚に並んでいる本の内容はほとんど頭に残っていないのですから。このような理由により、貸出期限が決まっており、いずれは返さねばならない図書館の本には関心がなかったのです。ただし、今は絶版になってしまい手に入らなくなってしまった本や高価な本は図書館で読んだ記憶があります。場合によっては何度も通って。というのはその多くが貸し出し不可のものだったからで

す。貸し出し可能な本は、本を傷めたり、著作権の問題があることも知りながらコピーをとって使わせてもらったこともあります。というのは、私は本に書き込みをする癖があるからです。これも、たとえ貸し出し不可のものでなくても図書館の本を借りなかった理由の一つです。

昔と違い現在の図書館は、本を貸す、場所を提供するばかりではなく、最新のコンピュータ化により情報の発信基地ともなっています。このことは、京都外国語大学附属図書館のホームページを見てみれば一目瞭然です。検索についても、昔は、著者名、タイトル、出版社などをたよりにカードを一所懸命探しましたが、今はコンピュータにより瞬時にして検索がおこなえる上に、キーワード検索により自分が思ってもいなかった関連文献を知ることできるようになりました。知識を芋づる式にたどっていくことは非常に楽しいことです。そのような意味でも現在の図書館の役割は大きいと思います。

ある人の留学記の中に書かれていたと思うのですが、留学中、幸いにも図書館でバイトができるようになり、比較的自由な時間が多かったので、この時間を利用して図書館の本を片っ端から読んでやろうと思い実践したというのを読んで、よほど小さな図書館でない限り全部を読破するのは無理にしても、自分の怠惰な留学時代に比較して、その意気込みには心打たれるものがありました。

今の私には、図書館の本を全部読んでやろうという意気込みなどももちろんありませんが、せめて自分の本棚に並んでいただけの本を、時間の許す限りもう一度読み直してみたいと思っています。今日この頃です。

ふなすぎ しんいち（助教授・フランス語学）

